

Hem21

財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

NEWS VOL.6 2007.10

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute の略称です。

CONTENTS

- 1・2▶ 21世紀文明を考える研究会
フォーラムを開催
- 3▶ 夏休み防災未来学校
2007を開催
- 4▶ 兵庫国際サマースクール
2007を開催
- 5▶ 機構外部評価を実施
- 5▶ HAT神戸掲示板
- 6▶ 情報ひろば

事務局

研究調査本部

人と防災未来センター

学術交流本部

こころのケアセンター

21世紀文明を考える研究会フォーラム 「日本人のこころと個人主義」を開催

「共生社会」の成熟に向けて

21世紀の諸課題について幅広い観点から議論を深め、当機構の研究成果を広く県民に情報発信する21世紀文明を考える研究会・第2回フォーラムを10月2日に兵庫県民会館において開催しました。

「日本人のこころと個人主義」をテーマに約200人が参加。阪神・淡路大震災の経験を経て、当機構が取り組んでいる「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に向けての調査研究を進めるため、21世紀の重要な課題である「コミュニティの形成」に関わる、日本人のこころのあり方と個人主義について考察しました。



冒頭に、主催者である当機構の貝原理事長が、阪神・淡路大震災の被災者の姿を見て、「お互いが冷静に助け合っていた」と日本人が世界から高く評価されたことなどを紹介。こうした「日本人のこころ」がどのような経過で形成され、どのような考え方で進んで



▲ 貝原俊民 理事長

いくべきなのかを考察することが今後の課題だと語りました。

フォーラム前半は、まず、宗教学者の山折哲雄氏が「日本人のこころと個人主義」というテーマで基調講演を行いました。後半は、キャスターの藤岡由佳氏の進行により、山折氏とルース・M・グルーベール関西学院院長が対談。戦後の人間関係の変化や、急激な高齢化社会への移行などから「心の問題」が深刻になっている背景を探り、子育て、宗教の役割などをめぐって意見を交わしました。日本人の死生観やいじめ問題など、多岐にわたる日本人のこころについて語り合いました。

出演者プロフィール

山折哲雄氏

■ 宗教学者

東北大学インド哲学科卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。東北大学助教授、国立歴史民俗博物館教授、白鳳女子短期大学学長、京都造形芸術大学大学院長、国際日本文化研究センター所長などを歴任。主な著書「近代日本人の宗教意識」など。

ルース・M・グルーベール氏

■ 関西学院 院長

アメリカ・ミネソタ州出身。ネブラスカ大学リンカーン校政治学大学院（政治学博士）。ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校教授を経て、関西学院大学社会学部教授、宣教師。2007年4月より現職。建学の精神であるキリスト教主義に基づき、中学部、高等部、大学全体の教育を統括する責任を負っている。

21世紀文明を考える研究フォーラム「日本人のこころと個人主義」要旨

日本古来の思想と、地球規模の視野を

基調講演

山折氏は、「日本人のこころ」は、「人間は信ずべき存在である」という前提に立ち、「集団主義」と「無常観」という二つの倫理によって支えられていると指摘。それらは、阪神・淡路大震災など近年の災害において被災者が見せた、助け合う姿勢や穏やかな表情に表れていると語りました。

また、明治時代の物理学者・寺田

「日本人のこころと個人主義」

寅彦が、「地震国で暮らす日本人は、自然に齒向かわず、その中で生きる知恵を身につけてきた。それは“天然の無常観”だ」と指摘したことを紹介。さらに兵庫県出身の哲学者・和辻哲郎が、自然災害への共同防衛策の中から、日本人の国民性がどう形成されたかに着目して論じたことにもふれました。そのうえで、災害に対応した社



山折哲雄氏

会をつくるためには、この二人の理論を遺産として受け止め、生かしていかなければならないと主張しました。

対談

キャスターの藤岡由佳さんの司会で、山折氏とグルーベル氏が、宗教の役割や教育問題などをめぐり、日米の文化比較をまじえながら対談。心の問題についてさまざまな角度から語り合いました。



▲ 山折哲雄氏

フォーラム後半は、山折氏とルース・M・グルーベル関西学院院長が対談しました。はじめにグルーベル氏は「阪神・淡路大震災では人々がお互いを助け合ったが、最近では、相手にあまり関心を持たない人々が増えている。それは、自分が属する集団では“自分らしさ”を生かすことができないにもかかわらず、そこにしかいることができないという絶望感があるのではないか。私たちは、選択ができる自由があることに気づかなければならない。そこに責任感も生まれる」と語りました。

その後、いじめや自殺、幼児や高齢者の虐待といった「心の問題」が増えている原因として、山折氏は、戦後60年を経て上下関係がなくなり、人間関係が立体的な構造を失ったこと、そして急激な高齢化に我々が適応できていないことが背景にあると指摘。グルーベル氏は、日米比較をしたうえで、子育てと親子関係、そして教育の大切さを説きました。

また、宗教が果たす役割として2人は、地球規模の視野に立ち、共存につなげていく必要性をあげました。また、心の問題を考えるうえで重要とさ



れる教育について、山折氏は日本人の死生観や自然観、美意識が含まれている古典をしっかりと教えることの重要性を、グルーベル氏は感謝する心を日常から育てていくことの必要性を説きました。最後に共生社会の成熟に向けての課題として、山折氏は「ともに生きるためには、“死”についても受け止めなければならない」と主張。グルーベル氏は、「異なる考え方を持つ人との共生を実現していく努力が必要だ」と述べました。



▲ ルース・M・グルーベル関西学院院長

当フォーラムを通じて、日本人のこころのルーツやその行方について理解を深めることができました。この議論の成果については、当機構の今後の調査研究や、様々な事業の展開に役立てていきます。

最先端の防災情報を広く伝える 夏休み防災未来学校2007を開催

「人と防災未来センター」では、8月14日～26日の7日間、「夏休み防災未来学校2007」を開催しました。阪神・淡路大震災の揺れを体感できる地震体験車など体験型プログラムをはじめ、防災の知恵や備えの大切さを学ぶワークショップなど多彩なイベントを実施しました。その一環として8月26日(日)に開講した、河田センター長による基調講演と、研究員によるレクチャーを紹介します。



◆ 河田恵昭センター長 基調講演

現代は世界的な災害多発時代に突入り、我々の住むアジアは、世界の災害件数の半分、死者の70%、被災者の90%を占める災害多発地域といえることを解説。さらに「近年は、災害の広域化・複合化が進み、途上国では人的被害、先進国では経済被害を伴う巨大災害が増加している。国内外で起こった地震や火山、サイクロンなど様々な災害の特徴、大災害になった理由を学んでその教訓を活かし、減災・防災の取り組みを進めることが重要だ」との指摘を行いました。

研究員レクチャー① 「災害で起こること」

近藤伸也研究員が、「能登半島地震でおこったできごと」というテーマで、今年3月に発生した能登半島地震の現地調査の報告を行いました。土砂災害危険区域で孤立集落が発生したこと、住宅の維持管理の大切さ、太い柱や丈夫な梁によって生存空間が確保できることなど、現地の写真を交えて災害の教訓について説明しました。

平山修久研究員は、「大規模災害でのがれきについて」と題したテーマで講義を行いました。首都直下地震が発生すると、普段の22.3か月分(阪神・淡路では4.7か月分)の廃棄物が発生し、東京が災害廃棄物で埋まってしまう恐れがあることを試算結果のデータによって示しました。その困難な状況を解決するため、被災地だけではなく広域的な地域連携の必要性について説明しました。

研究員レクチャー② 「復旧・復興に学ぶ」

越山健治主幹は、「家が壊れた後の復興について」と題して、住宅を無くした被災者は「避難」「仮住まい」「自宅」と住まい行動が変わっていくことや、被災後の住宅被害についての調査方法、地震でも壊れない家をつくるための対策や被災後の復興の道筋について講義を行いました。

紅谷研究員からは、「避難所生活の実態」として、地震で自宅に住めなくなった場合の避難所での生活に関し、阪神・淡路大震災での小学校やテント村の事例をはじめに、中越沖地震での暑さ対策などについて具体例を交えて説明しました。

近藤民代研究員は、「まちが壊れた後の復興」をテーマに、阪神・淡路大震災後の神戸市での街の復興を定点観察した写真の紹介や災害前から準備を行って「事前復興」の考え方、アメリカのハリケーン・カトリーナからの復興の取り組みについて解説しました。

市民や行政、専門家が協力して、復興後の暮らしや住まいのビジョンを共有することの重要性について述べました。

研究員レクチャー③ 「防災の未来へ」

照本清峰研究員は、「東海・東南海・南海地震のはなし」として、今後30年間に高い確率で発生が想定されている3つの地震について、その被害の大きさや特徴、事前に必要とされる準備等について説明しました。

最後に、原田賢治研究員から「津波災害への備えについて」と題して、津波の発生メカニズムや特徴、そして東南海・南海地震の津波の想定や、過去の津波災害の事例を通して津波被害の恐ろしさを説明しました。津波被害を避けるには、適切なリスク情報の伝達と素早い避難行動が必要だと結びました。



河田センター長が「国連笹川災害防止賞」を受賞

河田恵昭・人と防災未来センター長が2007年の「国連笹川災害防止賞」を受賞しました。河田センター長の受賞は、自然災害と防災についての長年の研究活動や、人と防災未来センター長として市民への防災啓発活動に貢献したことが評価されたもので、日本人の受賞は初めてです。

写真左から河田センター長、サルバノ・プリセーニョ氏 (ISDR (国連国際防災戦略) 事務局長)、もう一人の受賞者、トニー・ギブス氏 (カリブ諸国での耐震建築指導エンジニア) ジュネーブ国連欧州本部ビルにて

アジア太平洋地域の若者が、一堂に学ぶ 兵庫国際サマースクール2007を開催



当研究機構では、7月29日から約4週間にわたって「兵庫国際サマースクール(アジア若者塾)2007」を神戸市灘区にあるオックスフォード大学・セントキャサリンズカレッジ・神戸インスティテュートで、同校と共催により開催しました。

昨年に引き続き、2回目の開催となるこのスクールは、アジア太平洋地域の発展と交流・協力の枠組に寄与する若手人材の育成を目的としています。スクールの概要と成果を報告します。

スクールの概要

スクールには、海外若手政府関係者や各大学から推薦された国内外の学生など、インドネシアやタイ、ベトナム、豪州をはじめ、中国、韓国、フィリピン、米国を含む9カ国31名の受講生が参加しました。受講生は、「人間の安全保障」と「多文化共生」のコースに分かれて英語での討議・学習を行いました。アジア太平洋地域の諸問題について活発で率直な意見をかわし、「地球市民」の一員として友情を深めました。



カリキュラムは、国内外の大学や外務省、NGOピースウィンズ・ジャパンの講師陣による講義のほか、学生が主体となって企画運営する討議も行われました。また、Webの作成、各国の紹介を受講生が行うカントリーレポート、震災復興や日本文化を学ぶHAT神戸や京都へのツアーなどにより、充実した内容となりました。

さらに本年度は、国際交流で来日していたオックスフォード大学とケンブリッジ大学の学生や公開日に見学に来ていた大学生、県が受け入れたハバロフスク政府若手職員1名も参加しました。このほか、県内大学生2名をインターンシップとして事務局に受け入れるなど、多彩な参加者が加わってにぎやかなスクールになりました。

今年度のスクールの主な行事の概要は次のとおりでした。

主な行事概要

■ 開講式(7月30日)

関係各国の関西総領事をはじめ外務省の関西担当大使、大学関係者、兵庫県関係者など、多くの関係者が出席しました。

主催者挨拶 当財団の崎山本部長
来賓代表挨拶 在大阪タイ王国総領事
校長講話 兵庫国際サマースクール
校長・須藤健一教授
(神戸大学国際文化学部教授)
受講生代表挨拶
岡村さん(兵庫教育大学)と
フィエスティアンティさん
(インドネシア内務省)

■ 知事表敬(8月16日)

須藤校長と受講生、海外講師2名が兵庫県公館へ井戸知事を表敬訪問しました。知事挨拶の後、受講生代表として、ゴルニックさん(西豪州)が挨拶と感謝の意を伝えました。懇談では、受講生のリトンガさん(インドネシア・ゴルカル党)、ハさん(ベトナム国営通信社)、ストウウッドさん(タイ外務省)から兵庫県と姉妹都市の協力関係について熱心な質問があり、和やかな中で知事表敬は行われました。



■ 討議・カントリーレポート・HATツアー



受講生は、講師から与えられたテーマに沿った討議を、各コース6回にわたって実施しました。討議の結果は英文のレポートにまとめ、講師の評価を受けた後、年度末までに報告書に掲載する予定です。また、受講生の出身国紹介を行うカントリーレポートは、アジア太平洋地域の多様性を感じさせる内容で、参加者からは大変好評でした。

さらに受講生は、(財)兵庫県国際交流協会の協力による、HAT神戸ツアーに参加し、県立美術館やWHO、JICA、人と防災未来センターなどHAT神戸で活動している関係機関を訪問。阪神・淡路大震災から復興を遂げた兵庫県で行われている様々な取り組みについて学びました。

■ 閉講式・フェアウェルパーティ(8月26日)

スクールは学生自治により、成功裏に終了しました。受講生は、電子メールの交換や相互訪問を約束し、今後の連携を誓いながら神戸インスティテュートでの活動を終わりました。

人間の安全保障や多文化共生に関する理解を深め、次世代のオピニオンリーダーとして貴重な活動を積んだ彼らの、今後の活躍に期待しています。

機構の外部評価結果まとまる

機構外部評価を実施

当機構では、財団の設立目的を効果的かつ効率的に達成し、社会的責任を果たすために外部評価を実施しました。10月19日に新野幸次郎外部評価委員会委員長から、機構の貝原俊民理事長に対して評価結果についての報告書が手渡されました。

この「外部評価」は、今年度はじめて実施したもので、機構外の8人のメンバーからなる外部評価委員会(委員長:新野幸次郎(財)神戸都市問題研究所理事長)を設置して行いました。委員会は、当機構が中期目標・中期計画に沿って取り組んだ研究活動や事業活動について、機構の自己点検評価の結果をもとに、評価を行いました。

各委員は7月から9月にかけて、「研究調査の中間段階における評価」「機能別の評価」「研究所・研究部等の評価」「機構全体の評価」を分担して実施。また、「18年度に完了した研究調査」については、専門的な観点から評価を行う必要があるため、別に委嘱した8人の専門委員により査読を行いました。

そして9月28日に開催した2回目の「外部評価委員会」では、評価の取りまとめ作業と、今後の機構における研究調査

や事業活動について議論が行われました。今回の評価は、機構が運営している「人と防災未来センター」と「兵庫県こころのケアセンター」が個別に実施した、外部評価結果も踏まえ、総合的な観点から実施しました。全体としては「所定の成果をあげており、さらなる発展が期待される」との評価を受けました。評価結果については、今後の事業推進などに積極的に反映していきます。



外部評価報告書を提出

なお、評価結果は、全文を当機構のホームページで公表いたします。

外部評価委員名簿

- 委員長** 新野幸次郎
財団法人神戸都市問題研究所理事長
- 委員** 天野明弘
兵庫県立大学副学長
- 尾関 章
朝日新聞論説委員
- 蒲島郁夫
東京大学大学院法学政治学研究所教授
- 木村陽子
総務省地方財政審議会委員
- 佐藤友美子
サントリー株式会社次世代研究所部長
- 瀧川博司
兵庫県商工会議所連合会特別顧問
- 鷺田清一
大阪大学総長

HAT神戸 掲示板

国連国際防災戦略(ISDR) 兵庫事務所

国連国際防災戦略(ISDR) 兵庫事務所開設

10月14日、国連国際防災戦略(ISDR)兵庫事務所を(財)都市防災研究所アジア防災センター内(ひと未来館5階)に開設しました。平成17年に国連防災世界会議(兵庫会議)で採択された「兵庫行動枠組2005-2015」にのっとり、各国の防災連携を高める役割を担います。TEL:078-262-5550

国際連合地域開発センター(UNCRD) 防災計画兵庫事務所

10月8日~10日、アジア・太平洋地域ワークショップ「防災教育と安全な学校」をバンコクで開催

ワークショップにはアジア・太平洋地域24カ国の、防災や教育に携わる国際機関や学術機関などから304名が参加。UNCRDは、「学校の災害に対する安全性の強化」を主題とした会議を主催し、「学校補強のガイドラインの作成」を目的とした作業部会をネパールのNSET-Nepalと共催しました。学校とコミュニティへの防災教育の普及、学校の安全性の強化、子供たちの災害に対する脆弱性を減らすための「バンコク行動計画」を採択しました。TEL:078-262-5565

日本赤十字社兵庫支部

健康講座「冬にはやる子どもの病気について」

- 日時:11月7日(水)16:00~17:00
- 講師:小児科部長 吉新祥一
- 場所:神戸赤十字病院 3階第2研修室
- 電話またはFAXで申し込み。参加無料
- 申し込み・問い合わせ先:神戸赤十字病院地域医療連携室(予約センター)
- TEL:078-241-9273(直) FAX:078-241-9265

兵庫県立美術館

河口龍夫

—見えないものと見えるもの—

- 会期:10月27日(土)~12月16日(日)
- 観覧料:一般1,000(800)円
大高校生700(500)円 中小生400(200)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金
- 展示内容:河口龍夫は神戸市生まれの現代日本を代表する美術家。本展は名古屋市美術館との協同企画で、それぞれが河口の代表作を選んで同時期に展示する手法をとっている。闇の中で絵を描く参加体験型の「闇の部屋」、「船」の新作を含めた80点を展示。



《関係-浮遊する蓮の船》2007年参考写真 photo:齋藤さだむ

- ◎休館日/月曜日
- ◎開館時間/10:00~18:00
(金・土曜日は20:00まで)入場は閉館の30分前まで
- TEL:078-262-0901
- URL:http://www.artm.pref.hyogo.jp/

情報ひろば

学術交流本部

平成19年度 「ひょうごヒューマンケアカレッジ」 受講者募集

いのちの尊厳と生きる喜びを高めることを目的とした「ヒューマンケアの理念」に基づいた講座を開催します。

1 音楽療法講座「基礎講座」

音楽療法の専門的な学習に向けた基礎知識を学びます。

- 対象者：県内在住・在勤・在学の方で、音楽療法士を目指している方
- 日程：平成20年2月の5日間(計20時間)
- 場所：兵庫県こころのケアセンター
- 定員：60名程度(抽選)
- 受講料：4,000円(必要な場合別途実費)
- 応募締め切り：11月30日(金)

2 実践普及講座

(1)ターミナルケア講座・美しく老いをすごす生き方講座

- 対象者：兵庫県内に在住、在勤又は在学する方
- 日程：①ターミナルケア講座(12月20日～)
- ②美しく老いをすごす生き方講座(平成20年1月15日～)各10回
- 場所：神戸学習プラザ(三宮)ほか
- 定員：50名(抽選)
- 受講料：5,000円(必要な場合別途実費)
- 応募締め切り：
 - ①12月7日(金)
 - ②12月25日(火)



- 申し込み・問い合わせ先：
財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 県民講座推進課
〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-10-1
(神戸交通センタービル4階)
TEL:078-392-0168 FAX:078-392-0071
Eメール college@dri.ne.jp

研究調査本部

21世紀研究フォーラム 2007 参加者募集 「父親たちのチャレンジ —いま、父親の役割とは?—

父親の役割を模索している男性たちの試みを紹介し、家族の絆について考えます。フォーラムは、当研究機構少子・家庭政策研究所主任研究員による基調報告とパネルディスカッションで構成。コメンテーターは

勝木洋子・県立大学教授。県内の父親グループなどで活動するメンバーや学識経験者が活動の意義、効果などについて報告し、意見交換を行います。



- 対象者：一般県民、行政関係者
- 日時：12月1日(土) 13:30~15:30
- 場所：神戸クリスタルタワー 8F(JR神戸駅前)兵庫県立男女共同参画センター セミナー室
- 定員：100名 ●入場無料
- 申し込み・問い合わせ先：
兵庫県立男女共同参画センター
TEL:078-360-8550 FAX:078-360-8558

こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム 参加者募集

兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、災害、事件、事故、犯罪、自殺など、突然の出来事で家族を失うことになった遺族の方へのケアのあり方について、さまざまな角度から考えるパネルディスカッションを行います。



- 日時：11月21日(水) 13:30~16:30
- 場所：兵庫県こころのケアセンター(阪神電鉄「春日野道」駅東出口から南へ徒歩約8分)
- 定員：200名(事前申込・先着順)
- 入場無料
- プログラム

兵庫県こころのケアセンター研究報告

「自然災害が地域社会の精神健康に及ぼす影響について」(藤井千太主任研究員)

「子育て家庭への支援について」
(酒井佐枝子主任研究員)

「消防職員のメンタルヘルス—震災と殉職事故の影響について」(大澤智子主任研究員)

パネルディスカッション「遺族ケアに必要なこと」

下村誠治(明石歩道橋事故遺族)

堀口節子

(NPO法人ひょうご被害者支援センター支援局長)

村上典子(神戸赤十字病院心療内科部長)

加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター副センター長)

〈コーディネーター〉

廣常秀人(兵庫県こころのケアセンター主任研究員)

●申し込み・問い合わせ先：

兵庫県こころのケアセンター研修情報課
TEL:078-200-3010

Hem21NEWS vol.6

平成19年10月発行



(財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

(人と防災未来センター

ひと未来館6階)

▼URL

<http://www.hemri21.jp>

当機構は、事務局・研究調査本部、人と防災未来センター、学術交流本部、こころのケアセンターで構成しています。

●事務局

TEL 078-262-5585

FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

●学術交流本部

〒650-0021

神戸市中央区三宮町1-10-1

神戸交通センタービル4階

TEL 078-327-4380

FAX 078-392-0071

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・感想を事務局までお寄せ下さい



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

スパ&ホテル・ステイで、究極のリラクゼーション

ヒーリング音楽が流れるトータル・リラクゼーションスペースで、心身ともにリフレッシュした後は、快適な設備と極上のサービスを整えたホテルの中のホテル「クラウンプラザクラブ」で、至福のひとときを。

アンサナ・スパ ステイパッケージ 2007年12月31日(月)まで(適用除外日あり)

- クラウンプラザクラブ ダブル(1名様1室利用) お一人様 **¥35,000**
- クラウンプラザクラブ スーペリアツイン または ダブル(2名様1室利用) お一人様 **¥30,000**

※いずれも1名様あたり、マッサージ「アンサナ」(120分セッション ¥21,000相当)、朝食、税・サダの料金
※土曜・休前日は¥5,000UP



CROWNE PLAZA KOBЕ クラウンプラザ神戸 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目 Tel:078-291-1121 www.cpkobe.com



アンサナ・スパ営業時間 毎日午後12時から午後8時まで
(午後8時に最後のトリートメントが終了します)

■ご予約・お問い合わせは 宿泊予約係 ☎0120-75-5568